

未来への輪

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果 特別号

千歳市立向陽台中学校 学校便り 臨時号 令和7年12月3日発行

【学校教育目標】
『真理を求め 心豊かに たくましく』
知性を磨き創る人 広く絆を結ぶ人
理想を求め励む人 気高く強く生きる人
すすんで道を拓く人
R7 全体スローガン「向中、ISSHIN」

令和7年4月に実施いたしました全国学力・学習状況調査の本校の結果がまとまりましたので、その概要をお知らせいたします。この調査結果を踏まえ、生徒の学力向上に向けた改善プラン（第Ⅲ期）を作成し、学校の教育計画や日常の授業の改善に取り組んでおります。今後も学校と家庭が、お互いの役割を認識しながら一人一人を大切に育んでいきたいと考えております。家庭での学習などの取組についてご理解・ご協力をお願いいたします。

1. 教科に関する調査結果

【国語】

①結果の分析

全国の平均正答率と比較して「相当低い」という結果でした。

言葉の特徴や使い方に関する事項

○「文脈に即した漢字」や「事象や行為を表す語彙」を問う問題（1-日）については、全国・北海道とほぼ同じかそれ以上の正答率でした。

話すこと・聞くこと

○「資料や機器を用いて、自分の考えがわかりやすく伝わるよう表現する」問題（2-日）については、全国・北海道とほぼ同等の正答率でした。

●「自分の考えが明確に伝わるように論理の展開に注意して話の構成を工夫する」問題（2-国）については、課題が見られました。

書くこと

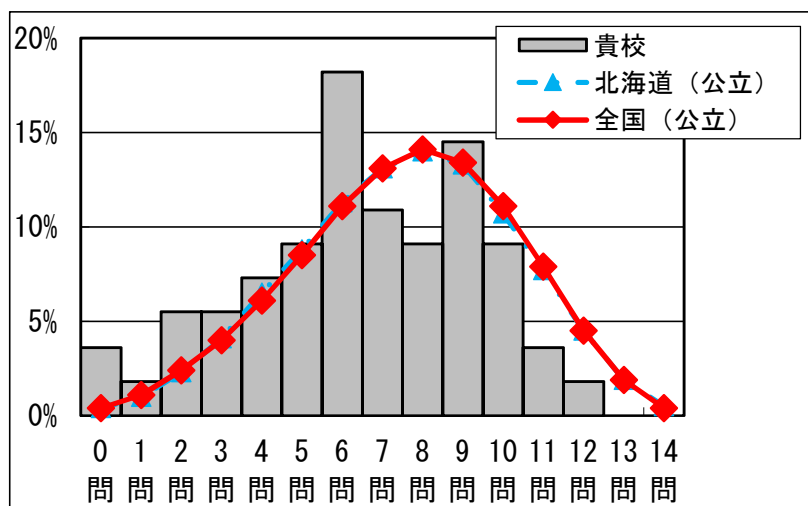
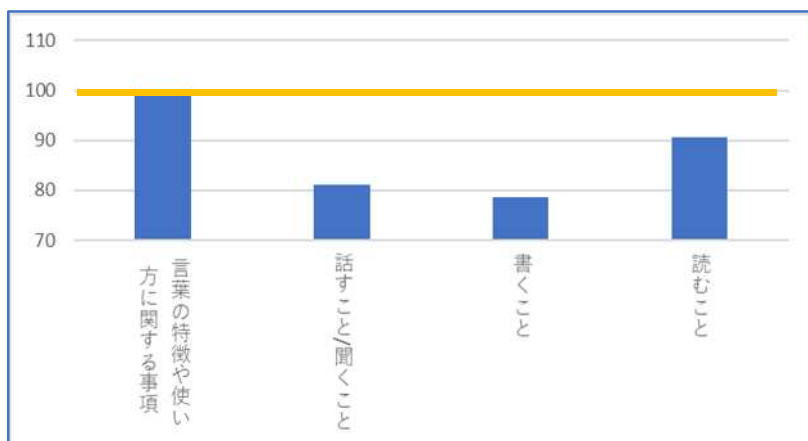
●「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるか」を問う問題に課題が見られました。

読むこと

●「表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるか」（3-日）を問う問題に課題が見られました。

②正答数の分布

14問中6問正答の割合が最も高く、15問全て正解した割合は0でした。しかし、0～4問正解の生徒など下位層が多く、上位層が少ない状況が見られます。



【学校の取り組みと改善策】

本校の課題は「根拠を明確にした記述力の不足」「記述式の問題に対する抵抗感」です。自分の考えを伝えるだけではなく、根拠を明確にするという点に苦手意識が見られます。そのため国語科では、論説文を使用し、文章の要旨を正確に捉える練習、本文中の言葉を根拠として用い、自分の考えを書く練習を行っています。授業冒頭の5分間では、新聞を活用し、読み書きの練習も行っています。

また、漢字の読み書きでは、定期的に小学校で習う漢字のテストを行うなど、入試に出題されやすい漢字問題に取り組んでいます。ICTを「書く力」を向上させるためのツールとして、効果的に活用できるよう、今後も取り組んでいきます。

【数学】

①領域別の結果分析

全国の平均正答率と比較して「相当低い」という結果でした。

数と式

「素数の意味の理解」(1)の問題では、正答率 50% (全国 31.8) 大きく全国を上回りました。一方で「数量を文字を用いた式で表すこと」(6-(1))や「目的に応じて式を変形したり、意味を読み取って理由を説明する」(6-(3))問題に課題がありました。

図形

「多角形の外角の意味の理解」(3)や「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明する」問題に課題がありました。

関数

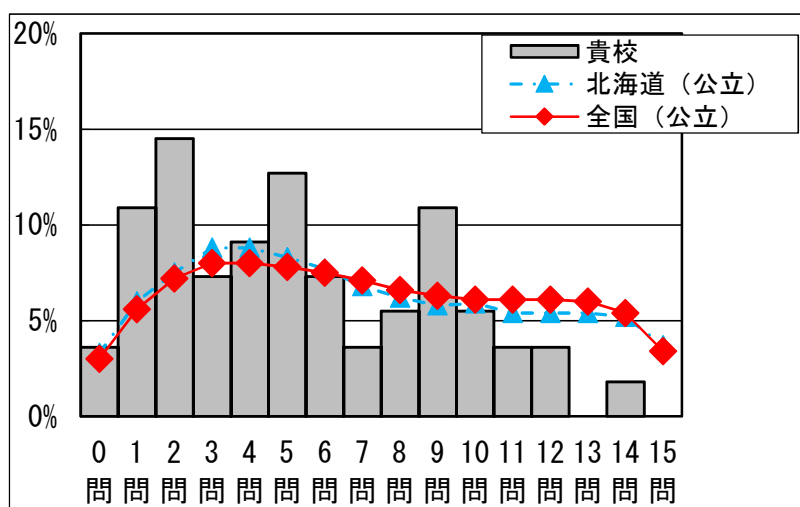
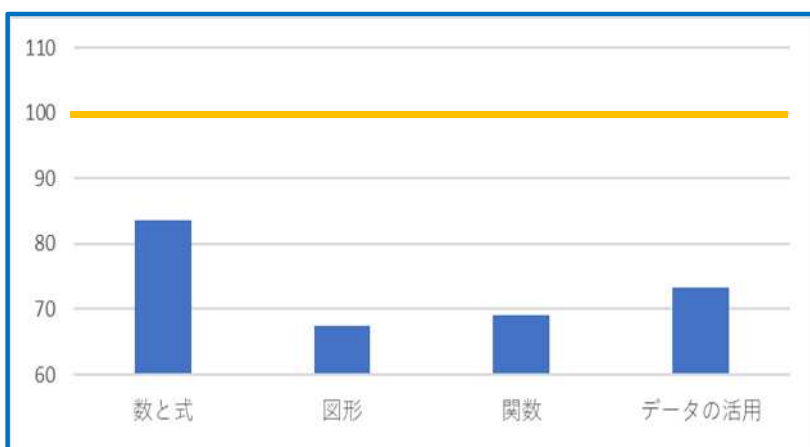
「変化の割合をもとにXの増加量に対するYの増加量を求める。」(4)や「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明する」(8-(2))問題に課題がありました。

データの活用

「相対度数の意味の理解」(5)や「不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断理由を数学的な表現を用いて説明する」(7-(2))問題に課題がありました。

②正答数の分布

15問中0～5問の正答数の生徒の割合が多くなっています。また、8～10問の正答数は全国をほぼ同様か上回っていますが、正答数が11問以上の高得点者も少なくないです。



「令和7年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例」は、国立教育政策研究所HPでご覧になれます。

URL <https://www.nier.go.jp/25chousa/25chousa.htm>



【学校の取り組みと改善策】

本校の課題は、本校の課題は、『知識・技能の定着』を進めることにあります。数学の問題を一問一答と捉える生徒が多く、数学を点と点で捉えなければならず、覚えなければならない事が多く感じていて数学に対して意欲が低い傾向にあります。

この課題を解決するために、学びの地図(単元計画表)を用いて、点と点が繋がるように視覚化し、記録に残しています。また、何を理解すべきなのか意識させるために、小テストなどを授業の終末に設定しています。問題(テストパークなど)で即時フィードバックし、その場で自分の理解度を確かめること、解説を見て理解を深める取り組みを繰り返し行い、定着を図っています。

【理科】

①結果分析

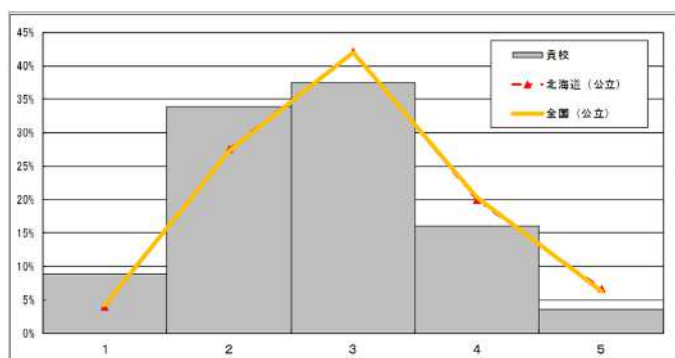
全国と比較して「**下回った**」という結果でした。

○正答率の高い問題

- ・身の回りの事象から課題を見だし、探究する中で、新たな課題を解決するための課題を設定することができる。
- ・元素記号や実験器具の操作などの知識が定着している。

●正答率の低い問題

- ・音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目して実験を計画し、予想される結果を適切に説明する。
- ・科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想する。
- ・大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討・表現する。



【学校の取り組みと改善策】

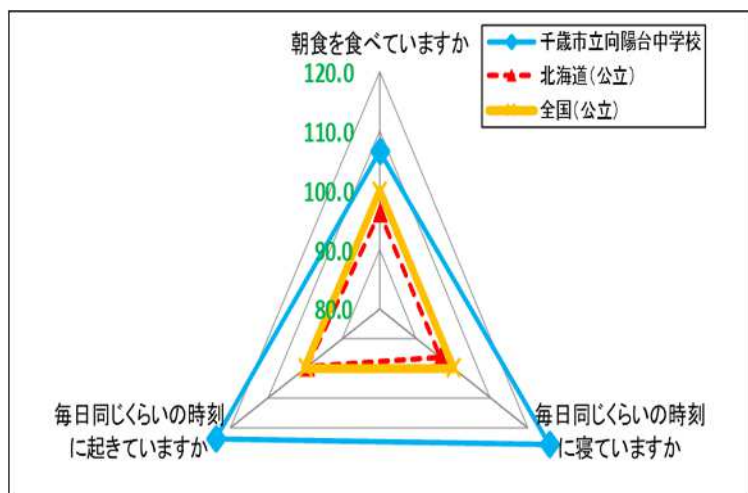
本校の課題は「仮説を検証するための実験方法や条件制御について考え、結果をもとに考察する力」を高めることです。様々な科学的な事象についての概念やそれを表現するために基礎知識については一定の知識を有しているようですが、その事象の原因となるものを見いだすための実験方法を考えたり、正しい実験結果を得るための条件制御について考えたりする力が不足しているであろうという結果となりました。

この課題を解決するために、「どのような実験や調査を行うと、授業課題を解決できるのか」という、解決の道筋を見いだす時間を増やしていきます。その中で効果的な話し合い活動やICTの活用を進め、科学的な見方や考え方を育てていきたいと思ひます。

2. 生徒質問紙調査結果

本校の特徴的な項目をお知らせすると同時に、子どもたちのより良い成長に向けて、家庭との連携協力を確実に図ります。

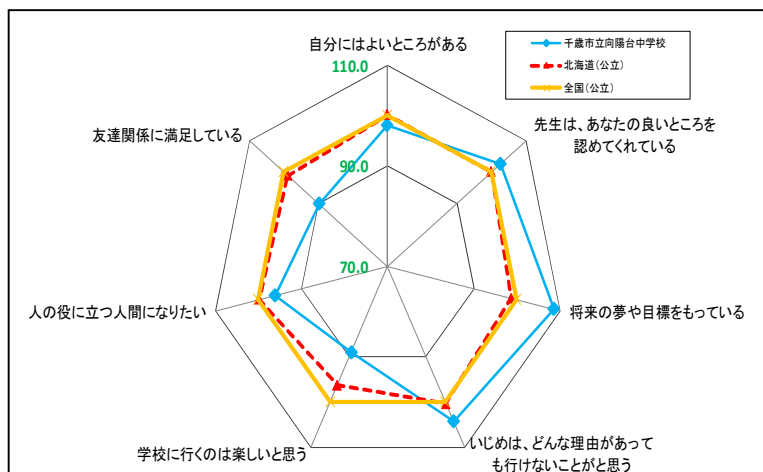
Ⅰ 基本的生活習慣等



全国を100としたときに、
本校で上回っているもの

基本的生活習慣「早寝・早起き・朝ごはん」については、全国を大きく上回りました。

2 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等



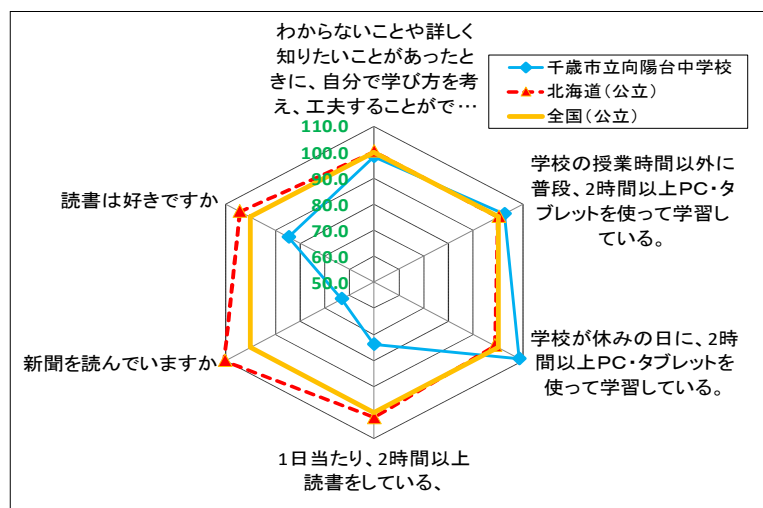
全国を100としたときに、
本校で上回っているもの

- ・将来の夢や目標を持っている。
- ・いじめはそんな理由があっても行けないことだと思う。
- ・先生は、あなたの良いところを認めてくれている。

全国を100としたときに、
本校で下回っているもの

- ・友人関係に満足している。
- ・学校に行くのは楽しいと思う
- ・人の役に立つ人間になりたい

3 学習習慣、学習環境



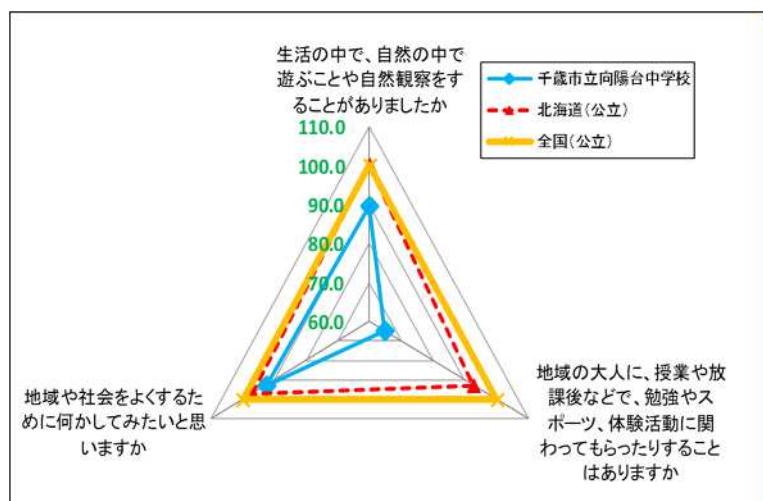
全国を100としたときに、
本校で上回っているもの

- ・学校が休みの日に、2時間以上、PC使って学習している。

全国を100としたときに、
本校で下回っているもの

- ・読書が好きですか
- ・新聞を読んでいますか？
- ・1日当たり、2時間以上読書をしている。

4 地域や社会に関わる活動の状況等



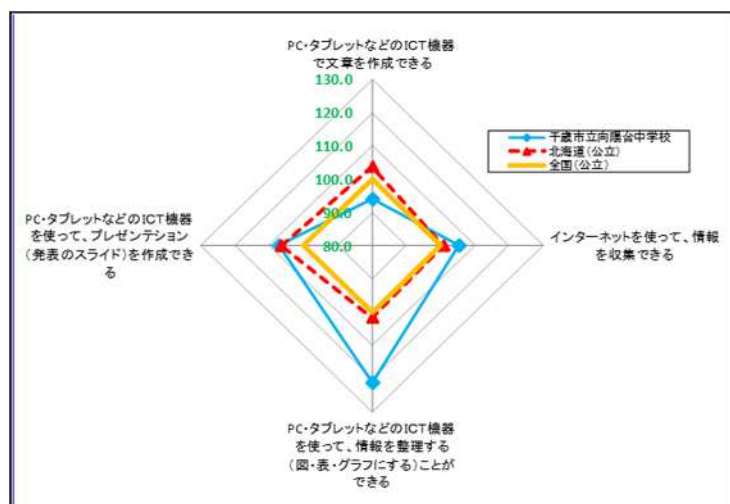
全国を100としたときに、
本校で上回っているもの

- ・全国を上回っている項目は、ありませんが、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」が全国とほぼ同等の割合です。

全国を100としたときに、
本校で下回っているもの

- ・地域の大人に、授業や放課後などで、勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらっている。

5 ICTを活用した学習状況



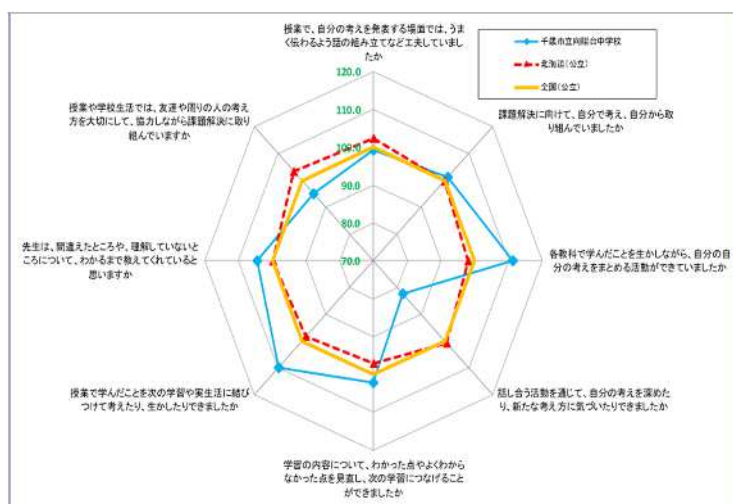
全国を100としたときに、
本校で上回っているもの

- ・PC、タブレットを使っている情報の収集や整理すること

全国を100としたときに、
本校で下回っているもの

- ・文書の作成

6 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善



全国を100としたときに、
本校で上回っているもの

- ・教科で学んだことを実生活に結びつけたり、考えをまとめる活動
- ・先生は、間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれている。

全国を100としたときに、
本校で特に下回っているもの

- ・話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすること
- ・友達の考え方を大切にして。協力しながら課題解決に取り組むこと

調査結果を踏まえ、今後学校で取り組むこと

- ・生徒が見通しを持って学べるよう、単元の学習計画や1時間の学習の流れを明確にします。
- ・自分の考えをしっかりと持ち、周りに伝える学習活動を意図的に行い、思考力や判断力、表現力を高めます。
- ・お互いの意見を聞き合うことで理解を深め、広げられるよう、小グループで「対話」する学習活動を積極的に取り入れます。
- ・タブレットの効果的に活用して、互いの意見や考えを伝え合い、理解を深められるよう、学び方を工夫します。
- ・ICT機器を適切に活用し、単元や授業の終了時にまとめや振り返りを行い蓄積していくことで、課題を見つけて次の学習へとつなげます。
- ・ハイパーQ検査等を活用して、安心して学べ、発言できる学級づくりを進めます。
- ・学習支援員などの活用を充実させていきます。
- ・読書活動を充実させるために、学校司書と連携することや図書委員会を活用した活動を進めます。

〔家庭ではこのような取組をお願いします〕



千歳市 家庭生活宣言

みんなで
取り組もう!

子どもの「学ぶ力」・「生活習慣」を支えます。

家庭生活目標

例：小6 = 70分
中1 = 80分

- 帰宅してからの**学習時間**は「**学年 × 10 分 + 10 分**」以上を目安に取り組めます。
- からだづくりの基本は「**早寝 早起き 朝ごはん**」。規則正しいリズムで過ごします。
- 家庭で**読書**をします。



ちとせ統一ルール

- ① メディアに触れる時間は2時間を目安にします。
- ② 就寝1時間前までにスマホの使用やゲームをやめます。
- ③ 悪口や個人が特定される言葉や画像を書き込みません。
- ④ 学習や食事中には、電話やメール、SNSを使用しません。
- ⑤ 困ったときは、保護者や先生等に相談します。



保護者の取組

子どもの成長を支える生活環境を整えます。
子どもをネットトラブルや犯罪から守るため、スマートフォンには**フィルタリング設定**をします。



千歳市PTA連合会 家庭生活宣言推進委員会

この事業は「みんなで進める千歳のまちづくり条例」による協働事業として実施(運営)しています。

千歳市PTA連合会では令和5年度に「千歳市家庭生活宣言」を見直し、令和6年度から、左記の通りに市内各校で更なる取組を進めています。千歳市の未来を担う子どもたちのために、家庭と学校が一体となって取り組むことが求められています。

スマホやゲームの約束事や学習時間などについて、参観日の懇談会やPTA活動の際に各家庭での取組を交流していただいたり、お知り合い同士で話題にいただいたりして、活動を深められればと思います。引き続きご家庭でのご理解とご協力をお願いいたします。